

## 【講演会報告】

## ロシア沿海州ウデヘ族の過去と現在

## A. カンチュガ氏講演会

(2007年度第3回講演会 北海道民族学会・北大文学研究科北方研究教育センター 共催)

津 曲 敏 郎

開催日：2008年1月29日

開催場所：北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W309 教室

講師：アレクサンドル・カンチュガ氏

後援：北大アイヌ・先住民研究センター

講師の A.カンチュガ氏はロシア極東のツングース系少数民族ウデヘであり、長い教員生活のあと、今は主に文筆活動を通してその言語と文化の伝承に従事している。ウデヘ語には公式の文字がなく、口頭で伝承されてきたが、今日すでに子どもには継承されておらず、話者実数は100名に満たない「危機言語」である。氏は自分なりの書き方でロシア字を使ってウデヘ語を記録している。ロシア語との対訳で書かれた「自伝」がすでに6冊に及んでおり、報告者（津曲）の手でそのうち5冊がウデヘ語・ロシア語対訳版のかたちで刊行・現地還元されている（Kanchuga/Tsumagari ed. 2003, 2005, 2006a, 2006b, 2007）。「少年時代」を描いた1冊目については、日本語訳を市販図書のかたちで刊行しており（カンチュガ／津曲訳 2001）、またその中に含まれる民話2つを取り出して絵本として公開している（カンチュガ／津曲編訳 2004）。これら自伝には、ウデヘの伝統的な暮らしぶりや現代への適応が、いきいきとした筆致で描かれており、言語・民族資料として貴重である（津曲 2001, 2007 も参照）。

今回の講演は、このカンチュガ氏自身を招いて、自民族の古代史から始まって最新の現状に至るまでを語ってもらう会となった。民族の古代史に関しては、氏が歴史書等から学んだ事柄が骨子となっているが、上記「自伝」第6冊でより詳しく論じられている（E. V. Shavkunov 1968 *Gosudarstvo Boxaj i pamjatniki ego kul'tury v primor'e* などがベースとなっているとのこと）。もちろん歴史の専門家の目から見れば、「通説」の域を出ない面もあるが、自民族のルーツ探求に寄せる氏の並々ならぬ情熱がひしひしと伝わってきた。

しかし当日の聴衆の多くは、氏の口から語られる現代のウデヘ、ひいては現代に生きる少数民族としての姿に、より大きな関心を引かれたに違いない。その意味では、講演前半の古代史の祖述よりむしろ、後半で語られた現代社会に適応し活躍するウデヘたちの姿や、伝統と近代化の両立への模索、村の産業と経済の問題、さらに氏個人とその家族の生き方にこそ、聴衆の心を動かすものがあつたと言えよう。そのことは講演後の質疑にもよく現れており、質問は、音楽教育を含む伝統文化保持と伝承の問題、エコツアー導入の現状、「松の実」採取等の新たな経済活動、などに集中した。これらに対するカンチュガ氏の回答がいずれも、伝統に必ずしも固執せず、今の生活を第一に考えて、いいものは取り入れ、外部とも交流をはかるべきだという、きわめて柔軟な考え方を表明していたのが印象的であつた。もちろん、氏のことばの端々にウデヘとしての自信と誇りをうかがうことができた。このような民族自身のポジティブなバランス感覚は、少数民族文化の今後を考える上で示唆的である。

今回の講演会は「北大アイヌ・先住民研究センター」の後援を得たこともあって、会場にはアイヌ関係者も多数来場していたが、同じ先住少数民族としての立場への共感や連帯の表明、



交流や情報交換の大切さなどが交わされ、この講演会自体がよい交流の場となった感がある。惜しむらくは質疑の時間が不足気味だったことだが、限られた時間の中、あらかじめ原稿を準備して、自身としては初めての講演に臨んでくださったカンチュガ氏と、的確な通訳を務めていただいた永山ゆかり氏（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員）、そしてロシア語原稿中の歴史的地名・民族名等についてあらかじめご教示たまわった菊池俊彦氏（北海道大学名誉教授）に感謝したい。

この講演のあと、カンチュガ氏は網走市の道立北方民族博物館での「ウデへ展」開幕記念講演会（2月2日開催）にも参加し、そこでも市民との交流の機会をもった。これらを機に、ウデへを含む少数民族とその文化に関心が深まることを期待したい。

#### 参考文献

カンチュガ, A./津曲敏郎 (訳)

2001. 『ビキン川のほとりで：沿海州ウデへ人の少年時代』。札幌：北海道大学図書刊行会。

カンチュガ, A./津曲敏郎 (編訳)

2004. 『ウデへの二つの昔話』。札幌：かりん舎。[CD版もあり]

Kanchuga, A. A./Tsumagari, T. (ed.)

2003, 2005, 2006a, 2006b, 2007. *Bagdise xokto telujumi (Avtobiograficheskaja povest' dlja chtenija po udegejskomu jazyku) : 1 Detstvo (2003), 2 Junost' (2005), 3 Studencheskie gody (2006a), 4 Faja (2006b), 5 Oxotich' i rasskazy (2007)*. Sapporo: Graduate School of Letters, Hokkaido University.

津曲敏郎

2001. 「ウデへの自分史との出会い」. 『アークティック・サークル：北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌』 41: 12-14, 網走：北方文化振興協会。

2007. 「ウデへ語における中国語借用語の一側面：チョウセンニンジン関係語彙を中心に」. 『北海道民族学』 3: 37-45.

(つ magari・としろう／北海道大学)